



報道関係者 各位

2026年4月17日

取材のお願い

小学1年生を地域で支える 桑原小×松山東雲短大 2年目の「幼保小の架け橋」 初めての給食サポートボランティア【4/22】スタート

昨年度（2025年）、メディアでも報道いただき、大きな反響を呼んだ取り組みが、今年も実施されます。松山東雲短期大学 保育科1，2年生が、松山市立桑原小学校1年生の給食時間にボランティアとして参加します。期間は、1年生の給食スタートである2026年4月22日（水）から5月13日（水）です。2年連続の実施で、地域の学校との継続的な連携として定着してまいりました。ぜひご取材いただきますようお願い申し上げます。

本取り組みのポイント

- ◆ **小学1年生にとってハードルが高い「自立した給食」に保育学生が寄り添う**
準備・配膳・片付けを自分たちで行うのは就学後はじめての経験であり、入学直後の1年生の不安や負担をそっとサポート。
- ◆ **文科省推進「幼保小の架け橋プログラム」の事例**
単なるお手伝いではなく、幼児教育と小学校教育の接続を意識した2年目の継続的な取り組みです。
- ◆ **食育活動もサポート**
5月12日には、実際に給食の食材として使われる旬の野菜「ソラマメ」の皮むき体験にも参加。

実施概要

期 間：2026年4月22日（水）～5月13日（水）

場 所：松山市立桑原小学校（松山市桑原3丁目7-27）

参加者：松山東雲短期大学 保育科1，2年生（各日：学生10名程度、引率教員1名）

【見どころの日程】

- ◆ 4月22日（水） 11：00～12：00・・・**給食サポート初日**。給食着の着脱補助から、待ち時間に実施する手遊びや歌、配膳・食事時のサポートまで。
- ◆ 5月12日（火） 13：30～・・・**ソラマメの皮むき体験**。体育館で児童と学生がグループにわかれ、ソラマメの皮を一緒にむく作業をします。



食べることを通じた学びの場としての給食

給食は食育の実践の場でもあります。好き嫌いへの対応やアレルギーへの配慮、栄養バランスへの意識づけに加え、食品ロスといった社会的課題にも触れることで、「食べること」そのものが子どもたちにとって多面的な学びの機会となっています。

また、給食は保育を学ぶ学生にとっても、実践的な学びの場となります。たとえば、小学1年生という幼児期から児童期への移行期にある子どもたちと接する中で、保育と小学校教育の接続について理解を深めることができます。配膳の手順や食器の扱い、食事のマナーなど、生活習慣に関わる子どもの行動を観察することで、学生は丁寧な声かけや適切な支援の方法を学び、実践力を高めることができます。また、子ども同士が協力し合い、ルールを守って行動する姿に触れることで、将来の保育現場で求められる対人関係能力や観察力も養われます。



参加学生からの声（2025年度）

昨年度（2025年）給食サポートに参加した学生からは、

「給食サポートは初めてだったが、小学校も、幼稚園や保育園も知ったうえで子どもとかかわることが大切だと感じた」

「苦手なメニューにもチャレンジしてもらえるように、『ひと口だけ食べてみようか』と優しく声をかけたら、食べることができて嬉しかったです。これからも、無理のない声かけを心がけたいです」

といった声が聞かれました。

幼児教育と小学校教育のつながりを体感

今回の取り組みの他、文部科学省の取り組みである「幼保小の架け橋プログラム」として、2023年より桑原小学校1年生を本学キャンパスに招き、自然遊びや竹馬、紙飛行機飛ばしなどを通じたふれあい活動も行っています。3年目を迎えた今年は、学生たちが去年の経験を活かし、より主体的に子どもたちへの関わり方を深めることが期待されます。こうした実践の積み重ねが、幼児教育と小学校教育との「橋渡し」となる視点を養うことにつながっています。

※ 小学校の駐車スペース確保のため、ご取材いただける際は必ず前日までにご連絡ください。

【発信元・連絡先】

松山東雲女子大学・松山東雲短期大学 広報担当：河淵（カワブチ）

松山市桑原3丁目2-1 電話：089-931-6211(代) Mail：kouhou@shinonome.ac.jp